

# くにみ学園基本構想

(たたき台 令和4年11月10日現在)

国見町教育委員会

# 目 次

## 第1章 基本方針

- 1-1 目的及び構想の位置づけ
- 1-2 国見町の保育・教育目標

## 第2章 計画の背景

- 2-1 国見町の概要
- 2-2 国見町の保育・教育
- 2-3 国見町の保育・教育の現状と課題
- 2-4 国見町の保育・教育・文教関連施設等

## 第3章 計画対象施設の現状

- 3-1 藤田保育所
- 3-2 くにみ幼稚園・預かり保育
- 3-3 国見子どもクラブ
- 3-4 国見小学校
- 3-5 県北中学校
- 3-6 給食センター

## 第4章 計画条件

- 4-1 事業計画
- 4-2 計画規模

## 第5章 教育的要求の整理

- 5-1 意見要望の聴取機会
- 5-2 意見要望の整理

## 第6章 計画の理念と方針

- 6-1 「(仮称) くにみ学園」が目指す子どもの姿
- 6-2 「(仮称) くにみ学園」が目指す保育・教育計画の在り方

## 第7章 施設計画に関する基本的な考え方

- 7-1 教育計画の方針を踏まえた施設計画の方針
- 7-2 新校舎建設に係る施設整備方針
- 7-3 施設規模
- 7-4 「(仮称) くにみ学園」が目指す施設環境の在り方

## 第1章 基本方針

### 1-1 目的及び構想の位置づけ

国見町は、県北地方の中央北部に位置し、北は宮城県白石市、東南は伊達市、西は桑折町に隣接しています。県都福島市からは16.5kmの距離にあり、仙台市、山形市、郡山市にはそれぞれ60km圏内の距離にあります。阿津賀志山や阿武隈山地や蔵王連峰に囲まれた福島盆地にあり、夏冬の寒暖差が大きい気候で、桃などの果樹栽培が盛んな地であり、豊かな自然環境に囲まれ、旧石器時代からの遺跡も多く、くだものと歴史の町として知られてきました。

これまで町内には、小坂小学校、藤田小学校、森江野小学校、大木戸小学校、組合立大枝小学校の町立小学校は4校、組合立小学校が1校ありました。また、町立幼稚園として、藤田幼稚園、森江野幼稚園の2園がありました。少子化による子どもの減少から、平成24年4月、町内の小学校が統合し、国見小学校が誕生しました。翌平成25年4月には幼稚園が統合し、くにみ幼稚園が誕生しました。この統合をきっかけに、藤田保育所、県北中学校と合わせ、平成26年12月にコミュニティ・スクールとして「国見学園」を発足しました。学校だけでなく、家庭や地域とともに子どもたちを育み、地域に愛され、地域を愛する心豊かな人づくりを目指すとともに、学校が地域と連携・協働を進め、地域と一体となった取り組みを進めるために、地域学校協働本部を活用し、保幼小中一貫教育のもと、国見町全体で子どもたちの成長を支えています。

しかし現状として、「小1プロブレム」「中1ギャップ」という学校間連結の課題や少子化に伴う教員数の減少により、小学校の教科担任制の実施が難しかったり、中学校ではすべての教科の教員がそろわず「免許外教科指導」や生徒たちのやりたい部活動がなかったりと様々な課題が顕在化してきています。

また、施設の老朽化に伴い、ICTなど最新の技術を取り入れた学びが十分にできなかったり、地域の力を取り入れた学びが十分にできない状況になっています。

さらには、今後も子どもの数が減り続けることは確実で、子どもの成長にとって大切な子どもたち同士の交流や地域の方々との交流が少なくなっており、異年齢の子どもたち、あるいは校種を超えた交流、地域の方々との交流をさらに図る必要があります。

そのため、0歳から15歳までの連続した学びの場として、認定こども園と義務教育学校を併設した、「(仮称)くにみ学園」基本構想を策定し、子どもたちが地域に誇りを持つとともに、お互いに切磋琢磨し合いながら将来に向かって学び合い育ち合う、地域とともにある学校の具現化を図るものです。

なお、この基本構想は町長が策定する国見町教育大綱としての位置づけを兼ねた「国見の教育ビジョン2021(国見町教育振興計画)」と「6つのまちづくり」のうちの一つとして「未来につながるまちづくり(子育て・義務教育・生涯学習)」が定められている「第6次国見町総合計画」の2つの上位計画、さらには、質の高い幼児期の教育・保育及び地域子ども

も・子育て支援事業の提供を図るための指針「第2期国見町子ども・子育て支援事業計画」に基づきます。

## 1-2 国見町の保育・教育目標

(1) 基本理念 「命を大切に 誰もが幸せに暮らすまち くにみ」

この基本理念のもと、様々な課題に対応しながら10年後の私たちのために、そして次世代の子どもたちのために新しい国見町をつくっていく必要があります。

(2) 目指す子どもの姿「自ら学び、心豊かでたくましく、郷土を愛する国見の子」

これは、国見学園コミュニティ・スクールが目指している子どもの姿です。

これを領域ごとに4つの柱で示したものが「自ら学ぶ力をはぐくむ」「豊かな心をはぐくむ」「健康な体をはぐくむ」「郷土愛をはぐくむ」です。

4つの柱それぞれに3~4つのめあてが決められており、町内の保育所・幼稚園・小学校・中学校が連携し、保幼小中一貫教育を推進する「国見学園」として、学校種や発達段階に応じた特色ある実践がなされています。

(3) 具体的な取り組み（実践例）

柱	めあて	中学校	小学校	幼稚園	保育所
自ら学ぶ力をはぐくむ	ことばの力を高めよう	言葉の持つ価値を認識し、適切に聞く、話す、書く、読む活動に取り組むことができる。等	自分の考えと比べながら話を聞き、理解することができる。等	相手の話をしっかり聞くことができ、内容を理解する。等	話を聞き、自分の思ったことを言葉などで伝えようとする。
	いろいろなことにチャレンジしよう	自己を客観的に評価することを意識しながら、キャリア形成を図る。等	自分なりのめあてや目標を立てて、ものごとに取り組むことができる。等	自分の思いを大事にしながら夢中になって遊ぶことができる。等	先生や友達とふれ合うことで、簡単な身の回りのことを自分から行おうとする。
	本に親しもう	必要性や趣味から書籍を選んで読む習慣が身に付いている。等	図書室や図書館から本を借りている。等	自分で絵本を選んで見ることができる。等	絵本に興味をもち手にとったり読んでもらったりする。等

柱	めあて	中学校	小学校	幼稚園	保育所
豊かな心をはぐくむ	あいさつをしよう	相手に伝わるように、礼儀正しく、心のもったあいさつをすることができる。	運転手さんや地域の方々に自分からあいさつをすることができる。等	先生や友達に「おはようございます。」等のあいさつを自分から言うことができる。	言語の発達に 応じて、言葉や身振り手振りであいさつすることができる。
	「ありがとう」を言おう	日常生活において、多くの方々にお世話になっていることに気づき、場に応じて感謝の気持ちを言葉で表すことができる。	様々な場面で他者を尊重する気持ちを持ち、感謝の気持ちを言葉で表すことができる。	「ありがとう」「どういたしまして」「ごめんなさい」などの言葉を自分から言うことができる。	友だちを思いやる気持ちが芽生える。等
	決まりを守り仲良く活動しよう	社会のルールやモラルを意識した言動を取ることができる。	社会や学校のきまりの意味を理解し、守ろうとしている。等	友達と親しみ、楽しく生活を送るためのきまりや約束を守ることができる。	日々の生活や遊びの中での友だちの存在に気づき、様々な経験を通して、きまりがあることに気づく。
健康な体をはぐくむ	一人一人のいのちを大切にしよう	お互いの人権を尊重し、いじめを決して許さない気持ちで、学校生活を送ることができる。	一人一人の命の尊さを理解し、いじめや相手を傷つける言動をとらず、互いに思いやっ て生活することができる。	友達の気持ちを考え、優しい気持ちで接し、いじわるをしないで仲良く遊び活動することができる。	身近な生き物に出会い、興味や関心を持ち、いのちがあることを知る。
	「早寝・早起き・朝ごはん」をしよう	「早寝・早起き・朝ごはん」などの生活習慣を自ら管理し、生活リズムを整えることができる。	「早寝・早起き・朝ごはん」などの規則正しい生活を送ることができる。	早寝・早起きをし、きちんと食事をして登園することができる。	発達に 応じ、生活リズムや基本的な生活習慣が身に付いている。
	体を使って遊び、運動しよう	保健体育の授業において、自分に適した目標をもって運動に取り組むことができる。	体育の時間に自分なりの目標をもって運動に取り組むことができる。等	外遊びを中心に体を動かすことを楽しむことができる。	走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを楽しむことができる。
安全や健康を考えて行動しよう	日常生活の危険を予測し、自分や他人の安全に配慮した行動をとることができる。等	様々な場面で危険を予測し、適切に行動することができる。等	けがや事故に気を付けて、安全に生活することができる。等	大人の言うことを聞いて行動することができる。等	

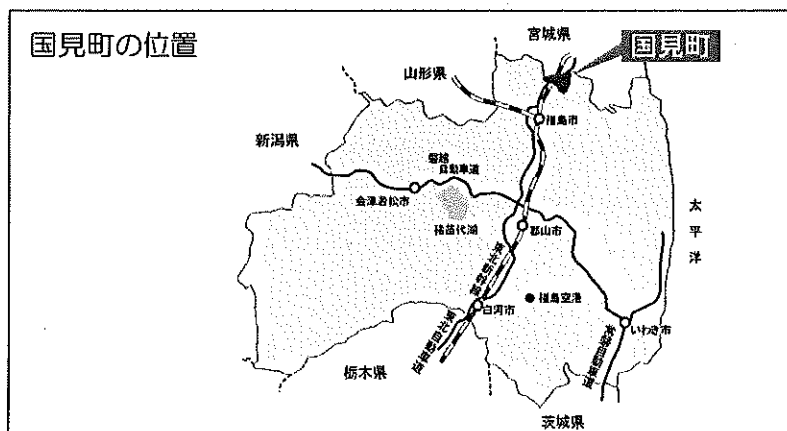
柱	めあて	中学校	小学校	幼稚園	保育所
郷土愛をはぐくむ	「ふるさと国見」を学ぼう	郷土学習の成果を、校内の集会や校外において、発表・発信することができる。	郷土学習で国見町のことを調べ、町のよさを分かりやすく伝えることができる。	地域の自然や行事にふれ、自分たちの住む町について知ることができる。	園舎外の自然や国見に伝わるものにふれたりする。
	家族や地域の人々とふれあおう	家族や地域の一員としての自覚をもち、身の回りの人々に思いやりの気持ちを持って接することができる。	家族や地域の方々に自分から関わり、一緒に活動することができる。	周囲の大人に教えてもらったり、一緒に活動したりしながら、ふれあうことができる。	家族と過ごしたり一緒に活動したりしながら、ふれ合うことができる。
	地域の行事に参加しよう	地域の行事に積極的に参加し、後輩の面倒を見たり、文化を継承したりしようとする。	地域の行事や催しに積極的に参加することができる。	地域の行事に参加し、楽しく活動することができる。	家族と一緒に地域の行事や文化とふれ合うことができる。

## 第2章 計画の背景

### 2-1 国見町の概要

#### (1) 位置と地勢

国見町は福島県の中央北部に位置し、北は宮城県白石市、東南は伊達市と桑折町に隣接しています。県都福島市からは16.5 kmの距離にあり、仙台市、山形市、郡山市にはそれぞれ60 km圏内の距離にあります。奥羽山脈と阿武隈高地に挟まれた福島盆地（信達盆地）の地勢にあり、総面積は37.95 km<sup>2</sup>、標高は中央部で76m、山間部では100～150mです。



#### (2) 気候

国見町の気候は、内陸性気候の特徴が混じった太平洋側気候で、年間平均気候は12.8℃、7月から8月の夏期は最高気温が35℃前後まで上がり、湿度も高く盆地特有の蒸し暑さが続きます。一方で12月から2月には氷点下7℃前後まで気温が下がり、降雪も中通り南部と比べると多いですが、年間降雨量は900 mm～1,000 mmで雨量は少ない状況です。

#### (3) 交通

国見町の中央部には、国道4号、JR東北本線、東北自動車道、東北新幹線が南北に縦断し、宮城県七ヶ宿町へ抜ける主要地方道白石国見線が東西に横断しています。

国道4号線を通ると、福島市・白石市まではそれぞれ約16.5 kmと車で30分程度です。また、東北自動車道には国見インターチェンジと国見サービスエリアが整備されており、これは本町が福島市と白石市及び郡山市と仙台市のほぼ中間に位置するためです。郡山市・仙台市まではそれぞれ約60 kmと東北自動車道経由で約1時間程度です。

鉄道は、JR東北本線が南北に通っており、藤田駅・貝田駅が存在します。藤田駅から福島駅までは約18分、郡山駅・仙台駅まではそれぞれ約1時間となっており、通勤・通学の重要な駅となっています。

#### (4) 産業

国見町の基幹産業は農業で、果樹と水稻を組み合わせた農業が主な経営形態です。

農業産出額では果樹が突出しており、桃・サクランボ・スモモ・ブドウ・リンゴ・柿の生産が盛んで、中でも桃の出荷量は全国 9 位、町の部 1 位（平成 22 年）を誇ります。水稻は、令和 3 年度現在 338 ha 作付けされており、半数以上がコシヒカリです。阿武隈川の氾濫原を耕地とする国見産の米は、豊かな味と品質の良さで県内外から高い評価を得ています。また、県内 3 位の面積を誇る約 67.7 ha の採取ほ場では、コシヒカリ、天のつぶ、ひとめぼれの優良種子生産が行われ、福島米のブランド確立に重要な役割を担っています。

畜産業は、採卵用養鶏、育雛に従事する農家が堅実な経営を行っています

一方、町の北西に連なる 1,400 ha の山林はほとんどが私有林です。635 ha が人工林で、推定材積は約 39.7 万 m<sup>3</sup>（令和 3 年度）です。

農業従事者については、全国平均及び福島県平均よりも年齢層が高く高齢化が著しく進んでおり、後継者不足が課題となっています。

#### (5) 人口

国見町の人口は、昭和 25 年の 15,629 人をピークに、高度経済成長期における都市部への一極集中の影響を受け、減少に転じました。その後、昭和 46 年からの第 2 次ベビーブーム以降、石油危機やバブル崩壊などのマイナス要因にもかかわらず、昭和 45 年から平成 7 年までは 12,000 人前後と横ばいで推移していましたが、以降減少が続いています。

年齢別の人口推移では、昭和 55 年から令和 2 年までの 40 年間を比較すると、人口が 12,050 人から 8,639 人へと 3,411 人（30.5%）減少し、そのうち年少人口（0～14 歳）は 2,642 人から 727 人へと 1,915 人（72.5%）減少しています。一方で、高齢者人口（65 歳以上）は 1,574 人から 3,642 人へと 2,068 人（131.4%）増加するとともに、高齢化率も 13.1%から 42.2%へと増加しています。

国見町の「人口ビジョン」では、毎年人口は約 120 人程度減少し、令和 22 年には 6,252 人になると予測されています。

#### 2-2 国見町の保育・教育

国見町には、町立の保育所、幼稚園、小学校、中学校が 1 か所ずつあります。少子化の進行から、平成 24 年に小学校を統合、平成 25 年に保育所、幼稚園をそれぞれ統合し、0 歳児から保育所、3 歳児から幼稚園による 3 年保育を実施し、連携しながら早期の就学前教育の充実を図ってきました。

また、平成 26 年 12 月には、県北中学校、国見小学校、くにみ幼稚園をコミュニティ・スクールに指定し、文部科学省が進める「地域とともにある学校づくり」に取り組んでいます。さらに、学校と地域との効果的な連携・協働のために地域学校協働本部を設置しており、



平成 29 年 12 月には、町での地域学校協働本部事業での学校支援ボランティア、放課後子ども教室、学習支援の取組が評価され、文部科学大臣表彰を受けました。

生涯学習は、複合施設である観月台文化センターを拠点として展開しています。0 歳からのブックスタート、小学校での移動図書館、子ども司書講座、保育所から中学校までの家読推進など読書活動に取り組み、令和 2 年度には国見町図書館をオープンしました。また、国見っ子わんぱく広場、少年仲間づくり教室など、子どもたちの居場所づくり、さまざまな体験活動を通した学びの場を作っています。

スポーツは、上野台運動公園に総合運動場、体育館、屋内外のテニスコートを整備し、放課後の部活動をはじめ、スポーツ少年団や地域クラブの活動など、子どもから大人まで健康づくりや体力づくり、趣味の活動に参加できる環境を整えています。

## 2-3 国見町の保育・教育の現状と課題

### 【保育の現状と課題】

国見町における就学前児童に対する保育・教育施設としては、厚生労働省が所管する「保育所」、文部科学省が所管する「幼稚園」、町が設置する「子育て支援センター」があり、それぞれ関係法令等に基づいて運営しています。

しかし、少子化や就労環境の変化等により、就学前児童を取り巻く環境は様変わりをし、将来にわたる施策のあり方について検討が求められています。

そのような状況を踏まえ、国見町の就学前教育を取り巻く現状と課題について、次の通り整理しました。

#### (1) 少子化の状況

国見町における就学前児童数（住民基本台帳人口）については、平成 29 年度以降少子化が進み、就学前児童数の減少が著しくなってきました。

#### ○就学前児童数

		H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
保育所対象	0 歳児	38	46	42	27	35	28	20
	1 歳児	42	40	53	43	29	33	30
	2 歳児	51	47	41	53	44	30	32
	計	131	133	136	123	108	91	82
幼稚園対象	3 歳児	38	51	47	40	53	46	33
	4 歳児	51	39	54	45	41	51	45
	5 歳児	57	51	39	54	46	39	51
	計	146	141	140	139	140	136	129
合計		277	274	276	262	248	227	211

## (2) 保育所・幼稚園等の状況

次の表は保育所と幼稚園等の利用状況について一覧にしたものです。

### ○保育所の入所者数

定員 72	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
4月時点	64	66	72	64	41	44	47
3月時点	75	75	73	73	61	63	65



保育所の入所者数は、令和元年度以降減少しています。入所者数を4月時点と3月時点と比較してみると、育児休業後の職場復帰等により年度途中での申込み、特に0歳児の申込みが多くなっています。

### ○幼稚園・預かり保育の利用者数

定員 200	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
幼稚園	143	138	139	139	138	134	128
預かり保育	86	93	94	97	100	100	100



幼稚園の利用者数は、人口減少に伴い減少していますが、預かり保育利用者は増加傾向にあります。

### ○学童クラブの利用者数

	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
学童クラブ	125	135	138	116	115	107	93
小学生(1~6年)	440	412	391	354	335	322	294



小学生の児童数減少に伴い学童クラブ利用者も減少していますが、保護者の就労等により、児童が安心・安全に放課後を過ごせる居場所の必要性は増えてきています。

## (3) 保育所・幼稚園等の課題

各施設等の在籍者の推移から現状を分析すると、そこから読み取れる傾向や課題について、次の点をあげることができます。

○国見町の就学前児童数は、総人口減少に比例して今後も減少していくと見込まれます。

○家庭の働く状況の影響で保育所の入所者数は年度途中の申込み、0歳児の申込みが増えています。

- 現場においては、保育人材の確保が困難な状況にあり、受け入れに支障も出ています。
- 幼稚園では、通常保育時間を超えての預かり保育利用者が年々増加しています。預かり保育の充実した保育環境の確保が必要です。
- 学童クラブの利用者は減少していますが、保護者の就労等により、児童が安心・安全に放課後を過ごせる居場所の必要性は増えてきています。

【教育の現状と課題】

(1) 小中学校の状況

平成 27 年以降の児童生徒数・学級数・教職員数の推移は以下のとおりです。

○国見小学校

年度	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
児童数	440	412	391	354	335	322	294
学級数	19	19	18	16	15	15	16
教職員数	34	31	36	34	34	36	39

○県北中学校

年度	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
生徒数	242	253	243	228	216	206	200
学級数	10	11	11	11	11	10	9
教職員数	27	31	29	29	30	29	31

(2) 教育の課題

少子高齢化や、教育・社会環境の変化、学力学習状況調査・運動能力調査等により、以下のような課題があげられます。

○児童数、職員数の減少

少子化の進行により、国見町内各学校の児童生徒数は、平成 27 年から令和 3 年の 6 年間で国見小学校が 440 名から 294 名、県北中学校が 242 名から 200 名に減少しています。学級数、教職員数の減少により、ダイナミックな活動や交流活動が困難になり、中学校においては部活動の維持継続が難しくなっています。

○学力

学力の二極化がみられ、活用力や応用力の向上が課題となっています。また、主体的に学ぶ態度や学習意欲の向上も大きな課題です。

#### ○ICT 環境

本町の ICT 環境は国の計画水準を満たしていますが、より充実した環境整備が求められています。

#### ○体力・運動能力低下

全国比マイナスの種目が多く、特に走力、持久力、柔軟性の向上が課題となっています。

#### ○いじめの防止

いじめの年間認知件数は増えています。国見町では「子どものいじめ防止条例」のもと、いじめの防止、いじめの早期発見、早期対応に各学校と町一体となって取り組んでおり、幸いにも重大事案に発展する事態には至っていませんが、今後も人権意識を育ていのちを大切に作る取り組みをより推進していくことが求められています。

#### ○不登校

不登校を含め、学校や学級生活への不適應状況を示す子どもが年々増えています。自己肯定感が低く不安傾向が強い子どもや発達上の課題を抱えていると思われる子どもの割合が増えている実態にあります。

#### ○専門スタッフの配置

子どもたち一人ひとりが必要に応じた支援を受け、豊かな学びを保障するために、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、特別支援教育支援員、スクール・サポート・スタッフ、部活動指導員、ICT 支援員など多様な専門スタッフの充実を図る必要があります。

#### ○施設の修繕

学校施設に関し、老朽化や度重なる地震被害により、大規模な修繕、改修が必要となっています。

#### ○家族形態及び地域コミュニティの変化

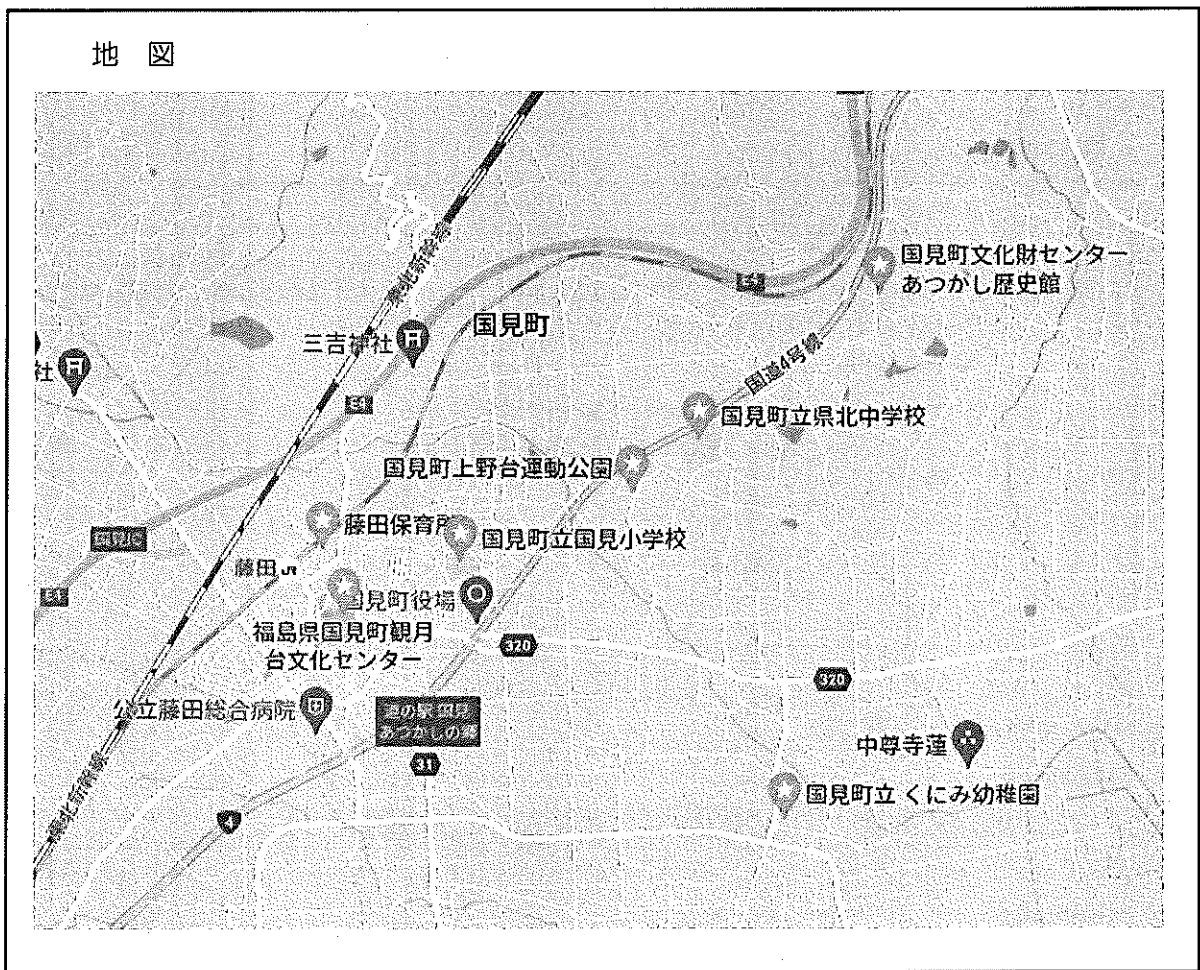
急速な少子高齢化に伴う、家族形態の小規模化・多様化、子育ての孤立化、コミュニティ意識の希薄化により、家庭や地域における子育ての仕方が変化していると指摘されており、子どもを取り巻く福祉的、教育的課題が複雑多様化しています。そのため、学校、保護者、地域が一体となり、学校と地域の双方向の連携協働が求められています。

## 2-4 国見町の保育・教育・文化関連施設等

国見町の保育・教育施設として、町立の保育所、幼稚園、小学校、中学校が1か所ずつあり、文化関連施設は観月台文化センター、あつかし歴史館があります。

また、スポーツの面では上野台運動公園に総合運動場、体育館、屋内外テニスコートを整備し、老若男女問わず各種スポーツを通じて健康づくりや体力づくりに参加できる環境を整えています。

地図



### 第3章 計画対象施設の現状

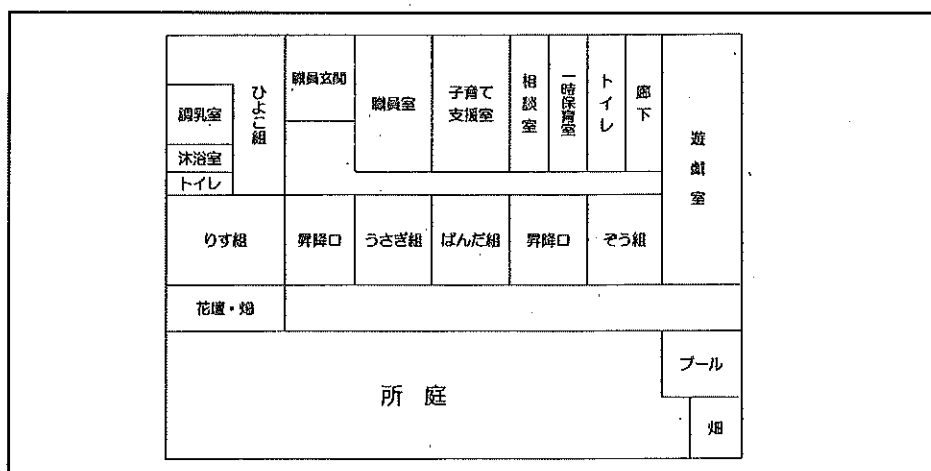
#### 3-1 藤田保育所

(1) 所在地 福島県伊達郡国見町大字山崎字館東 12 番地 1

(2) 建物概要

	藤田保育所
敷地面積	6,131.07 m <sup>2</sup> (デイサービス合築)
延べ床面積	859.64 m <sup>2</sup>
構造	S

(施設平面図)



(3) 保育目標・保育方針

○保育目標

「・思いやりのある子 ・よく感じ、よく考える子 ・健康で元気な子」

○保育方針

- ・保護者や保育士など特定の大人との愛着関係の形成を基に、子ども同士の関わりを持つことができるようにし、情緒的、社会的及び道徳的な基盤となる発達を促す。
- ・身体感覚を伴う多様な経験を積み重ね、豊かな感性、好奇心、探求心、思考力を養う。
- ・のびのびと体を動かして遊ぶことができる環境のもと、健康、安全な生活に必要な習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培う。
- ・「国見学園」をつらぬく4つの柱を意識し、発達段階に合わせた具体的な取り組みと「学校・家庭・地域が一体となった取り組み」「保幼小中一貫教育」の推進を図る。

○児童数・学級数（令和4年4月1日）

年齢	組名	男児	女児	合計	定員
0歳児	ひよこ組	3	4	7	72
1歳児	りす組	3	6	9	
	うさぎ組	6	3	9	
1～2歳児	ぱんだ組	7	5	12	
2歳児	ぞう組	7	5	12	
合計		26	23	49	

○職員数（令和4年4月1日）

	所長	保育士	事務	合計
正職員	1	8	0	9
会計年度任用職員	0	18	1	19
合計	1	26	1	28

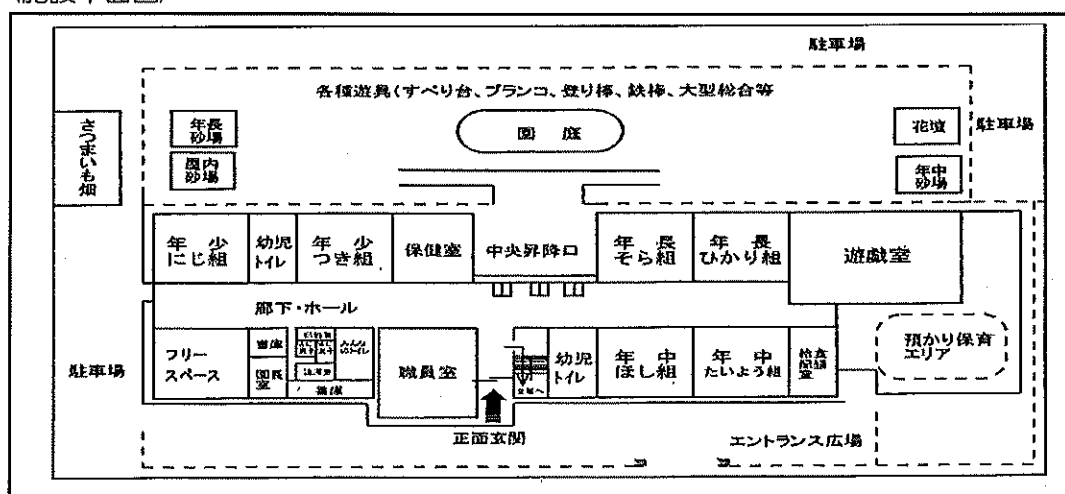
### 3-2 くにみ幼稚園・預かり保育

(1) 所在地 福島県伊達郡国見町大字森山字太田川 36 番地

(2) 建物概要

	くにみ幼稚園・預かり保育
敷地面積	18,538.00 m <sup>2</sup>
延べ床面積	3,079.59 m <sup>2</sup>
構造	RC

(施設平面図)



(3) くにみ幼稚園

○教育目標

「あつかしに ひかりかがやく くにみっ子」

- ・あ あかるい子ども (礼儀・自主性)
- ・つ つよい子ども (健康・根気強さ)
- ・か かんがえる子ども (思考力・創造力)
- ・し しんせつな子ども (親切・思いやり)

○重点目標

「主体的にかかわり学ぶ子どもの育成」

○具体目標

「三つの力の育成」

ア いきいき遊ぶ力の育成

- ・自ら楽しく遊ぶ場や環境の工夫



- ・言葉による伝え合う力の基礎を育成する実践
- ・思いや考えを表現する力の基礎を育成する実践

イ 気づき思いやる力の育成

- ・信頼感に満ちた温かい集団づくり
- ・道徳性と規範意識を育てる指導の充実
- ・人や自然とのかかわりを学ぶ機会や場の工夫

ウ たくましく行動する力の育成

- ・家庭と連携した基本的な生活習慣の形成
- ・運動的遊びづくりと日常化への指導・援助
- ・生活・交通・災害にかかる安全教育の徹底

(4) 預かり保育

○目的

- ①保護者の就労、家庭の事情などにより、幼稚園降園後、家庭で保育を受けられない幼児を対象に、保護者に代わって養育を行い幼児の健全な育成を図る。
- ②両親とも就労している家庭においても等しく幼稚園教育を受けられるように体制を整え、子育てを支援する。

○方針

- ①幼児の心身の健康と安全が確保されるように環境を整える。
- ②生活の流れや活動に配慮することで、幼児の心身の負担を少なくし、無理なく過ごせるようにする。
- ③家庭との連携を図りながら、一人一人の実態に応じた指導・支援を行う。
- ④一時的に受け入れる預かり保育児が、安心して過ごせるよう配慮する。

○園児数・学級数（令和4年4月1日）

くにみ幼稚園						預かり保育		
年齢	組名	男児	女児	小計	合計	男児	女児	合計
年少 3歳児	にじ組	6	9	15	30	9	13	22
	つき組	5	10	15				
年中 4歳児	ほし組	7	10	17	33	9	17	26
	たいよう組	7	9	16				
年長 5歳児	ひかり組	9	13	22	44	14	18	32
	そら組	9	13	22				
合計		43	64	107		32	48	80

○職員数（令和4年4月1日）

	園長	副園長	幼稚園 教諭	養護教 諭	用務員	預かり 保育	合計
正職員	0	1	7	0	0	0	8
会計年度任用職員	1	0	9	1	1	8	20
合計	1	1	16	1	1	8	28

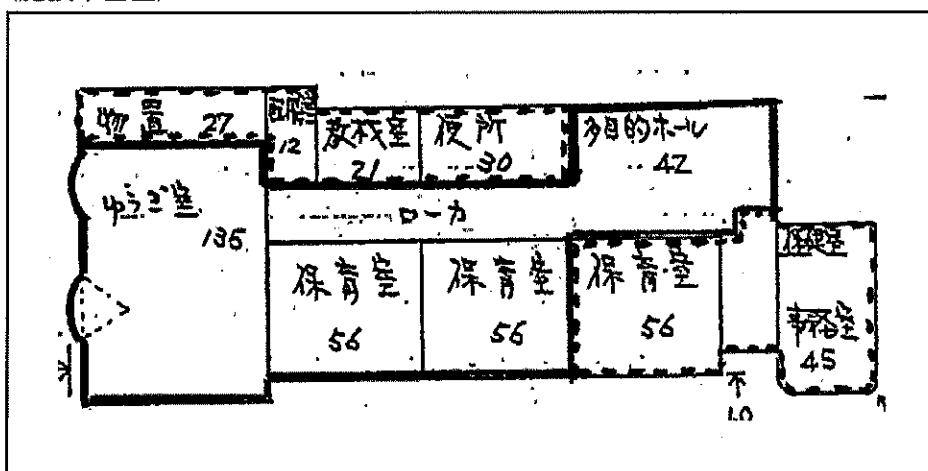
### 3-3 国見子どもクラブ

(1) 所在地 福島県伊達郡国見町大字藤田字町尻一 20 番地

(2) 建物概要

	国見子どもクラブ
敷地面積	1,370.00 m <sup>2</sup>
延べ床面積	579.00 m <sup>2</sup>
構造	RC

(施設平面図)



#### ○運営方針

- ①放課後において保護者の就労等により家庭での保育が困難な児童に安心安全な保育の場を提供する。
  - ・働く保護者等の子育てを支援する立場から家庭機能の代わりとして、児童が安心して通い楽しく生活できる「安心安全な居場所」の環境整備に努める。
- ②保育活動をとおして、児童の健全育成である基本的な生活習慣の確立、自主性と社会性、創造性等を育成する。
  - ・健康や安全への配慮、基本的な生活習慣等が身につくよう支援する。  
「学習や生活等の必要な活動」の支援
  - ・児童の健全な育成のために異学年集団のつながりを生かした社会性、「年長者」へのあこがれ、「年少者」への優しさ思いやりをとおした保育活動
  - ・仲間との生活や遊び、学習を通して共同で活動し教え合いながら、集団の楽しさなどの人間性や社会性を培う。
- ③発達に応じた親子への子育て支援
  - ・親子が共に成長できるよう、共に元気で子育ての喜びを味わえるよう支援する。
  - ・子どもクラブを通じて、学校と子どもクラブ、保護者と指導員とが手を携えて、子育てを援助する。

○児童数（令和4年4月1日）

学年	男児	女児	合計
1年生	20	16	36
2年生	4	16	20
3年生	13	13	26
4年生	12	3	15
5年生	5	3	8
6年生	4	4	8
合計	58	55	113

○指導員数（令和4年4月1日）

	指導員
正職員	0
会計年度任用職員	18
合計	18

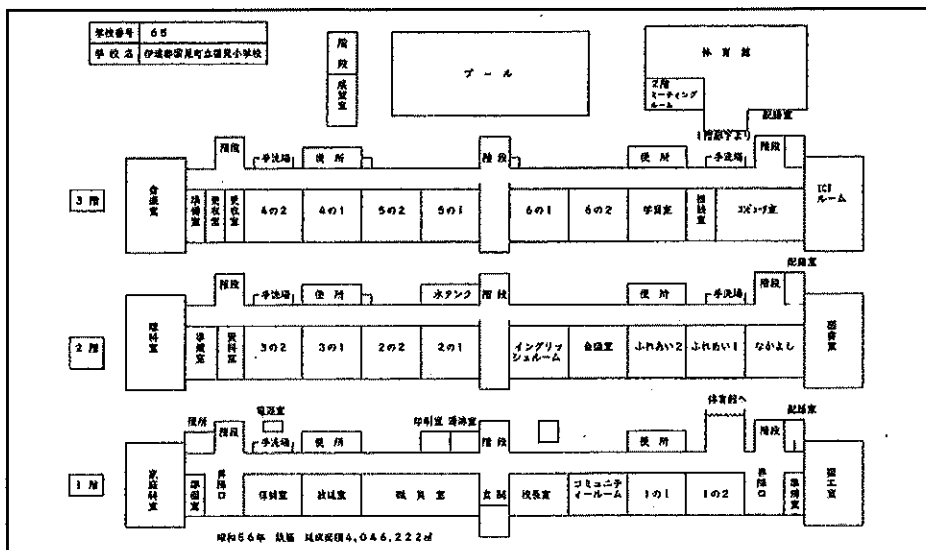
### 3-4 国見小学校

(1) 所在地 福島県伊達郡国見町大字藤田字町尻一 2 番地

(2) 建物概要

	国見小学校
敷地面積	20,341.56 m <sup>2</sup>
延べ床面積	4,046.222 m <sup>2</sup>
構造	RC

(施設平面図) ※学校要覧より



(3) 教育目標 (令和 4 年度)

○よく考える子ども (知)    ○心やさしい子ども (徳)    ○元気で明るい子ども (体)

(4) 教育スローガン・重点目標 (令和 4 年度)

【子どもとともに歩みを進める学校づくり】

夢・挑戦・努力

一人で (自力)・みんなで (協力)・最後まで (努力)

(5) 重点事項・具体目標

◎確かな学力を身に付けた子どもの育成

(1) 主体的で対話的な学びの実践

(2) 家庭学習と連携した学習習慣の確立

(3) 外国語科、外国語活動の学習指導の充実

(4) 読書活動の推進

◎ふるさとに学び、豊かな心を育む子どもの育成

- (1) 豊かな人間関係の醸成と自己肯定感を高める集団づくり
- (2) 道徳・人権教育の推進
- (3) 地域人材を活用した国見学の推進

◎健やかな体づくりを進める子どもの育成

- (1) 基本的な生活習慣の確立
- (2) 体力の向上
- (3) 家庭や地域との連携
- (4) 安全教育の推進

(6) 児童数・学級数・教職員数（令和4年5月1日）

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援 学級	計
学級数	2	2	2	2	2	2	3	15
児童数	46	35	42	48	34	48	20	273

・教員数

(県配置) 校長1名、教頭1名、教諭16名、講師3名、養護教諭1名、主事1名、  
SC1名、SSS1名  
(町採用) 英語特別講師1名、学校司書1名、用務員1名、支援員6名、SSW1名、  
給食配膳2名(委託)

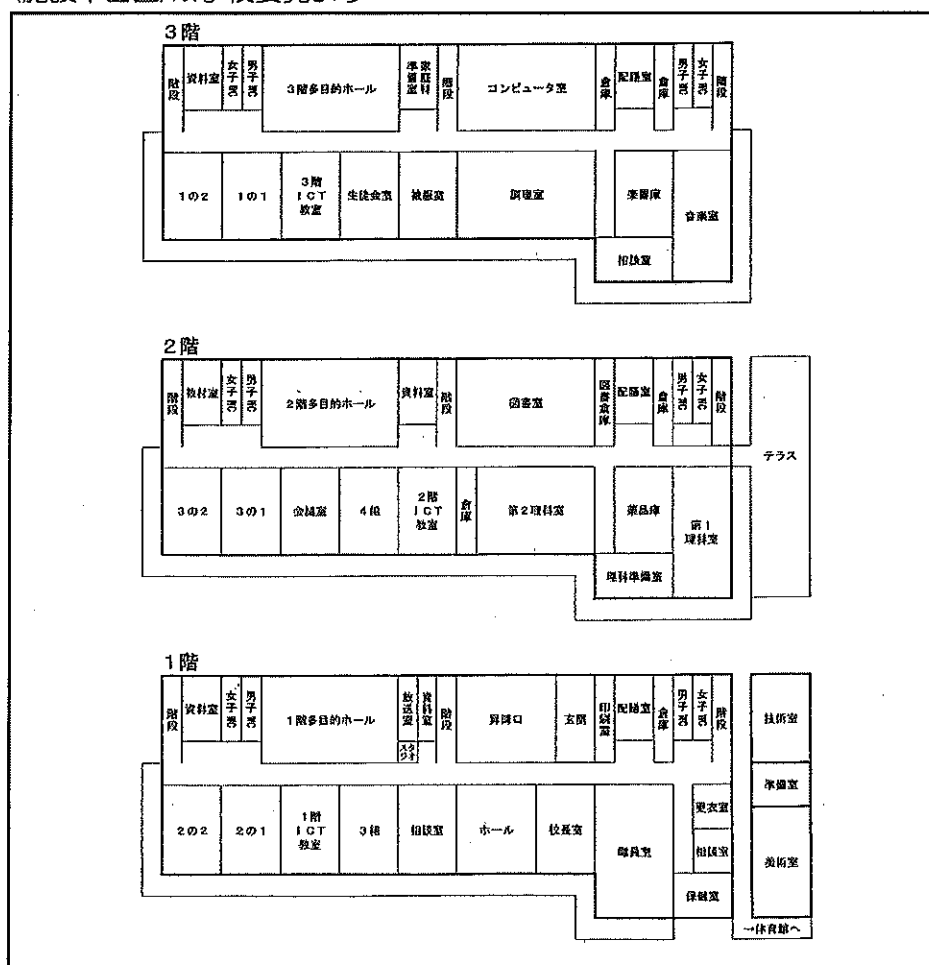
### 3-5 県北中学校

(1) 所在地 福島県伊達郡国見町大字森山字上野台 20 番地

(2) 建物概要

	県北中学校
敷地面積	33,539.16 m <sup>2</sup>
延べ床面積	4,997.28 m <sup>2</sup>
構造	RC

(施設平面図) ※学校要覧より



(3) 教育目標 (令和 4 年度)

- 自ら進んで学習する生徒 (自主自立)
- すなおで豊かな心を持つ生徒 (豊かな心)
- 責任ある行動をとる生徒 (責任感)
- 健康安全に心がける生徒 (健康安全)

(4) 教育スローガン（令和4年度）

～県北プライド～「自己肯定感・他者肯定感・郷土愛・協働する力の育成」を目指して

(5) 重点実践事項（令和4年度）

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現
- 相手の立場を理解し、伝える力の育成
- 健康を保持・増進する態度の育成

(6) 守るべき伝統（令和4年度）

○無言で取り組む「清掃」 ○心のこもった「あいさつ」 ○主体的な「話し合い」

(7) 具体目標

◎主体的に学ぶ授業づくり

- (1) 教室環境・授業のユニバーサルデザイン化
- (2) 思考力・判断力・表現力の育成
- (3) 家庭学習の充実
- (4) 夢の実現・目標達成への実行力の育成
- (5) 全学年朝読の実施

◎認め合う集団づくり

- (1) 考え議論する道徳科の実践
- (2) 話し合い・体験活動の充実
- (3) おもいやりの気持ちを育てる活動の充実
- (4) 感謝する気持ちを育てる活動の工夫

◎自治的活動の推進

- (1) リーダーシップの向上を図る教育活動の工夫
- (2) 郷土に貢献する態度の育成
- (3) 自主的な係活動・当番活動・部活動の遂行

◎健康な体づくり

- (1) 危険を回避する力の育成
- (2) 粘り強く取り組む態度の育成
- (3) 望ましい生活習慣・食習慣に関する指導の充実
- (4) 体育の授業・部活動における運動時間確保の工夫



(8) 児童数・学級数・教職員数（令和4年5月1日）

学年	1年	2年	3年	特別支援学級	計
学級数	2	2	2	2	8
生徒数	59	63	58	7	187

・教員数

（県配置）校長1名、教頭1名、教諭14名、講師3名、養護教諭1名、主査1名、  
栄養技師1名、SC1名、SSS1名

（町採用）英語指導助手1名、学校司書1名、用務員1名、支援員2名、  
SSW1名、給食配膳2名（委託）、ICT支援員1名（委託）

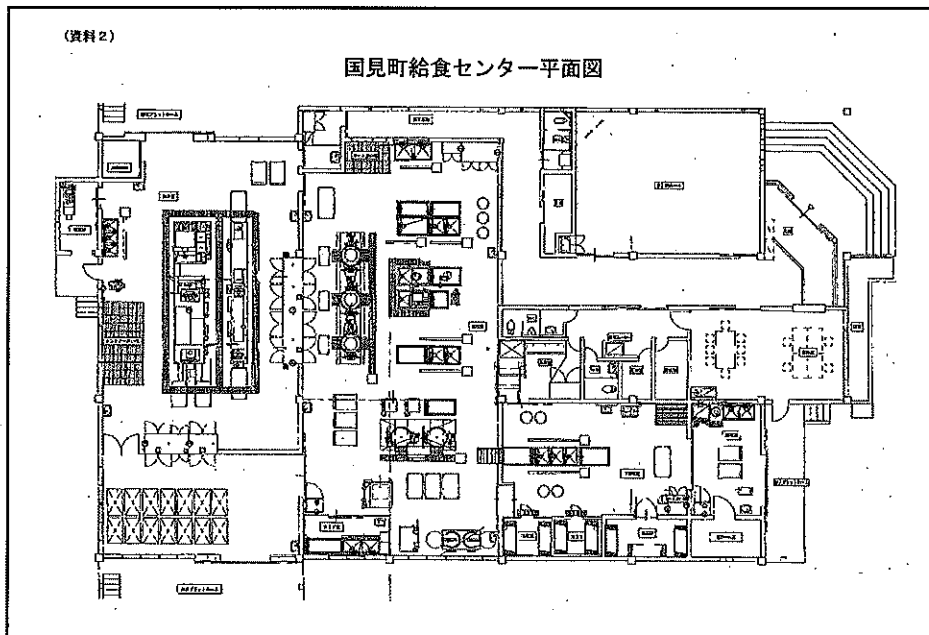
### 3-6 給食センター

(1) 所在地 福島県伊達郡国見町大字森山字西国見51番地

(2) 建物概要

	国見町給食センター
敷地面積	3,992.00 m <sup>2</sup>
延べ床面積	703.50 m <sup>2</sup>
構造	S

(施設平面図)



(3) 調理形態 ドライ方式

(4) 給食区分 完全給食(週5日実施)

(5) 受配校数 2校1園

(6) 職員数 所長1名、栄養技師1名、委託職員10名

## 第4章 計画条件

### 4-1 事業計画

#### (1) 整備が求められる各機能の現状

##### ○保育及び学校教育

国見町では、少子化の進行から、平成24年に小学校を統合し「国見小学校」に、平成25年には保育所・幼稚園を統合し0歳～2歳児までを「藤田保育所」で、3歳から5歳児までを「くにみ幼稚園」でと、時代に合った保育・教育環境の整備を行ってきました。

また、放課後児童クラブについては、小学校統合に合わせて平成24年に「国見子どもクラブ」として開設しました。

(人数：人)

施設名	平成27年度	令和4年度
藤田保育所	64	49
くにみ幼稚園	143	107
国見子どもクラブ	125	113
国見小学校	440	273
県北中学校	242	187

#### (2) 計画対象施設

計画対象施設を次のように示します。

- 国見小学校と県北中学校の統合による義務教育学校（小中一貫校）
- 藤田保育所とくにみ幼稚園の統合による幼保連携型認定こども園
- 放課後児童クラブ

国見小学校と県北中学校を義務教育学校（小中一貫校）として集約し、更に幼保連携型認定こども園や放課後児童クラブ、地域のコミュニティスペースを加えた複合施設として、質の高い教育と保育環境を整えます。

#### (3) 新教育施設等の整備基本方針

施設整備にあたって、現段階で想定しうる状況を踏まえ、以下を基本方針として定めます。

- ①認定こども園、義務教育学校、放課後児童クラブ、体育館、校庭、地域住民が利用できるコミュニティルーム、公営塾に係る学習施設、プレーパーク、体験農園等の機能を整備します
- ②施設は現規模にこだわらず、適正規模で計画します
- ③将来の人口増加に応じて規模を拡張できる施設とし、各時点での運営体制に応じ、活気

ある活動が可能な計画とします

- ④近年続く地震等災害への安全対策、また、町が推進するSDGsの具現化を図ります
- ⑤認定こども園、義務教育学校の給食は自校（自園）調理とします
- ⑥プールは上野台運動公園に再整備したプールの利用を想定します
- ⑦放課後等デイサービスの整備を今後想定します

#### 4-2 計画規模

##### (1) 計画学級数

###### ○各年齢人口の想定

想定には、平成27年10月に策定した国見町人口ビジョン、国見町第6次国見総合計画等の上位計画で想定する地域人口を判断材料として、以下の方法で各年齢の想定人口を算定します。

###### ○計画学級数

計画学級数の算定にあたっては、各年齢の人口想定に基づき、幼保連携型認定こども園、小学校及び中学校の段階に分けて検討します。

幼保連携型認定こども園は、0歳から対象としますが、女性の就業率が全国平均よりも高いことから、今後もニーズは増加するものと想定し、全世帯が希望しても対応できる施設とします。

	学年・年齢	開校時想定数		児童生徒数増加見込み (計画学級数)	
		子どもの数	学級数	子どもの数	学級数
認定こども園	0歳	25	5	25	5
	1歳	25		25	
	2歳	35	2	35	2
	3歳	35	2	40	2
	4歳	35	2	60	2
	5歳	35	2	60	2
	計	190	13	245	13
小学校	1年生	45	2	66	3
	2年生	45	2	66	3
	3年生	45	2	66	2
	4年生	45	2	66	2
	5年生	45	2	66	2
	6年生	45	2	66	2

	特別支援 学級	—	4	—	6
	計	270	16	396	20
中 学 校	1年生	45	2	66	3
	2年生	45	2	66	2
	3年生	45	2	66	2
	特別支援 学級	—	3	—	4
	計	135	9	198	11
合計		595	38	839	44

## (2) 計画面積と対象となる補助事業

各年齢人口及び計画学級数の算定を根拠に、認定こども園はこども園認可基準、義務教育学校（小中一貫校）は設置基準を充足し、対象部分の面積が義務教育諸学校等の施設整備費の国庫負担等に関する法律が定める整備資格面積の範囲内とします。整備資格面積の算定にあたっては、義務教育学校（小中一貫校）の特別支援学級、プール、自校給食調理場は含めず、義務教育学校（小中一貫校）の多目的加算を含めて算定します。実際の施設整備にあたっては、「過疎対策事業債」を活用するものとします。

## 第6章 計画の理念と方針

Society5.0時代として産業構造や社会システムなど社会の在り方そのものが大きく変化しつつある中、子どもたち一人一人を大切に、また、お互いを尊重し、協働しながら探求的な学びを進め、自ら課題を解決していく資質・能力を育成していくことが目標となっています。そのためには、すべての子どもたちの可能性を引き出し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実する必要があります。

そのため、「(仮称)くにみ学園」においては、CS委員会を核としながら、より一層の保幼小中一貫教育を推進するとともに、10年後20年後の社会を力強く生き抜く力を育てるため、地域学校協働本部を核とした地域連携型の探求の学びを展開します。

### 6-1 「(仮称)くにみ学園」が目指す子どもの姿

- 思いやりのある子
- 柔軟性のある子
- 自分の夢に向かって意欲的にチャレンジする子
- 自分で判断できる子
- 生き抜く力、やり抜く力を持った子
- 解決力、相談力、自立心のある子
- 国見を愛する子

### 6-2 「(仮称)くにみ学園」が目指す保育・教育計画の在り方

- 豊かな心をはぐくむ
  - ・0歳から15歳までの保育・義務教育期間を通して、主体的に学ぶ力、協力しながら課題を解決する態度を育てる
  - ・認定こども園、義務教育学校の子どもたちが自由に移動しながら、異年齢同士で触れ合う機会を持つ
  - ・個々の特性を基とした多様化を大切に、特性に応じた個別最適な学びを提供する
- 自ら学ぶ力をはぐくむ
  - ・答えのない問いに挑戦する機会を確保し、想像力・思考力を高める
  - ・最先端技術、科学、ビジネス、社会を「体験」し、未来に向けた学びとして「本物に触れる」機会をもつ
  - ・情報化・グローバル化など、社会の大きな変化の中で生き抜く力を高める
  - ・児童生徒が議論し、決定し、児童生徒同士で育ちあう場を提供する
- 健康な体をはぐくむ
  - ・協働による学習や活動、異年齢交流を通じて自己肯定感を高める
  - ・思い切り身体を動かし、たくましい心と体をはぐくむ
  - ・心身が健康な体づくりのため、幼少期から家庭教育との連携を図る

- ・地産地消や自分たちが育てた野菜を献立とした給食による食育を推進し、食の大切さを伝える

○郷土愛をはぐくむ

- ・自然の魅力を全身で感じ、国見町の歴史や文化、学校の歩みを学ぶことで、町や子どもたちが通う学校に誇りを持つ
- ・地元産の野菜や果物を使用した6次化商品の開発等町づくり、地域づくりに関わる機会を確保し愛着を深める
- ・子どもたちの地域づくりを推進するため、町と学園が頻繁かつ深く結びつく
- ・成人しても国見町を想いつながり続ける気持ちを醸成する

○安心して学べる環境

- ・ICT環境の充実化を図り、より豊かな履修内容をつくる
- ・個に応じた支援環境を整備し、多様化する特性に対応する
- ・地震や水害など様々な災害に備え、安全に活動できる環境とする
- ・防犯や安全確保など、セキュリティに十分配慮する

○地域とともにある環境

- ・認定こども園・義務教育学校を通じて、子どもたちの育ちを地域のみinnで支える
- ・町の子育て拠点として、子どもを通じて、町民同士や他の地域の人々との出会いや交流を深める
- ・子育て、生涯学習、コミュニティ活動の場となり、町民を受け入れる

